

JR 東日本とオープン戦 三宮投手ピンチを再三退け好投

10月17日(火)JR 東日本柏球場で社会人野球日本選手権大会前のチーム強化一環として強豪チームとのオープン戦が組まれており JR 東日本と対戦いたしました。

球場は15日からの雨で田んぼ状態の中 JR 東日本の選手諸氏がグラウンド整備に3時間近く手入れを行い1時試合開始を45分遅らせのプレーボールに間に合わせた。

JR 東日本チーム選手諸氏とグラウンド関係者の皆様に頭が下がる思いと共に感謝いたします。

(私は12時球場に入り状況を確認いたしておりました。16日の阪神球場と同じ状態でした。)

明治安田生命の先発は新人黒萩投手(立大)・捕手は怪我から復帰の尾嶋選手で期待を持って見守った。黒萩投手はボール先行で1番打者をレフトフライに抑えたが2・3番連打され1死2・1塁のピンチ4番をレフトフライに打ち取るが5番にストレートの四球2死満塁の大ピンチを6番打者をレフトフライに打ち取りピンチを凌いだ。以後もボール先行で4回まで我慢のピッチングで JR 東日本に得点を与えず頑張ったが、5回明治安田は2点を追加し3対0としたその裏、先頭打者にレフト戦へ二塁打次打者4番にライト線へタイムリー1失点後続を安打1で抑えこの回を取り切った。6回から二番手として岡投手が登板するも味方のエラーと四球、1死2・1塁で三宮投手にマウンドを託し降板した。岡投手はボールに切れもなく味方のエラーもあったが投球に投手魂しいが全く感じられなかった。リリーフした三宮投手は闘魂を露わに出して打者に立ち向かっている。三宮投手は7・8回を1安打に抑え9回ピッチ前バンドを一塁手と連係ミス(一塁手の凡ミス)で内野安打とし次打者を三振に打ち取るもその後連続四球を与え1死満塁の大ピンチ、しかし6番打者を0ボール1ストライク後ピッチャーゴロの併殺打に抑え勝利を勝ち取った

先発黒萩投手・二番手岡投手もっと堂々と手を振りや躍動感ある投手になってください。

三宮投手は驕ることなく自信を持って明治安田のエースに駆け上ってください。

さて、打撃陣ですがしぶとく成りました。日立戦で完封されたとは思ってもありません。

3回1死後9番新城選手敵失で出塁すると1番今売り出し中の吉田選手が三遊間を破るヒット、続く2番木田選手1死2・1塁からレフト戦へタイムリーヒットで新城選手が先取点のホームイン。

この回のスピード感ある攻撃お見事。

5回先頭打者新城選手のライト線を破る二塁打、1番吉田選手送りバンドが微妙な打球で内野安打、無死3・1塁のチャンスに2番木田選手のセンターへ大飛球の犠牲フライで2点目。続く3番大野選手ライト前ヒット1死2・1塁4番増野選手のセカンドゴロを敵失で吉田選手ホームインの3点目。7回は大野選手二塁打増野選手のバンド失敗で大野選手3塁でアウトとなるも竹内選手のライト前ヒットで1死2・1塁6番指名打者小川選手に代打島田選手がサードゴロで2死3・1塁7番井村選手がレフト前にタイムリーで追加点。8回先頭ラッキーボーイ新城選手死球で出塁木田選手の二塁打で追加点。9回泉澤選手と四球を挟んで敵失でダメ押し2点追加し合計7点を獲得して JR 東日本に勝利した。

この試合を久しぶりに観戦して感じたことは8月以降の勝利は従来明治安田になかったになかったしぶとさを強く感じた。投手陣も古田投手・大久保投手・三宮投手を中心に鈴木投手・上田投手・小林投手・玉熊投手・岡投手・黒萩投手の頑張りが社会人野球日本選手権大会での勝利に導いてくれると信じています。

打撃陣の加藤主将始め増野選手・宮川選手竹内選手のベテランに吉田選手・木田選手の新人と井村選手・島田選手はじめ泉澤選手・小川選手他中堅組の選手が日替わりラッキーボーイとなり強烈な攻撃陣を構成してください。

四球	1	0	0	0	0	3	0	1	1	6
安打	1	0	2	1	3	0	3	1	1	12
明治安田	0	0	1	0	2	0	1	1	2	7
イニング	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
JR 東日本	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
四球	1	1	1	0	1	0	0	0	2	6
安打	2	2	1	0	3	3	1	0	1	10

投手成績

	投球回数	被安打	獲三振	与四死球	失点	自責点
黒萩	5回	3	1	3	1	1
岡	1/3	0	0	1	0	0
三宮	3回 2/3	2	2	2	0	0

(敬称省略)

グラウンド整備する JR 東日本の選手たちに感謝



2017年10月18日
土田唯雄